

2023年8月13日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「箱舟から出なさい」

聖書：創世記8：15～22

「ノアの箱舟」物語は、神が造られた世界に悪が満ち、その悪を一掃するというお話。ここは神の思いに反する悪に満ちた人々への神の審判がくだされたということなのか。箱舟に乗ったノアの家族だけは悔い改めた人間、洪水にのまれ死んでいく人間は悔い改めない人間。この物語にはそういう理解がある。しかしこういう理解は、人間を「箱舟の中の人」か、「箱舟の外の人」と見てしまう傾向にある。

3世紀の神学者キュプリアヌスは、「教会の外に救い無し」という教理を発信したが、そういう傲慢な解釈はキリスト教会の中に今もあるのではないか。中世のカトリック教会の記録に教皇のこんな言葉が残されている。「世界には唯一の使徒的教会がある。カトリック教会がそれである。この教会の外には罪の赦し、すなわち救いはない。ちょうど大洪水の時、箱舟が一隻しかなかったのと同じである。あの時、箱舟の外の者は皆滅びた。それゆえ、ローマ教皇に従うことは、すべての人間の救いにとって絶対に必要である。」もちろん今のカトリック教会はそんなことは言わない。どちらかというところ今のプロテスタント教会が、そういうことを言っているように聞こえる。

キリストは、教会の人だけを救うために来たのか？教会の人だけに十字架を表し、復活の恵みはあるのか。ヨハネ福音書にこうある。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。…神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」(3:16-17)。

神は洪水の後、「箱舟から出なさい」と言われた。箱舟は留まる場所ではない。神は、ノアの家族や動物たち、生き物が全て箱舟から出た時にこう語る。「人に対して大地を呪うこと…生き物をことごとく打つことは、二度とすまい」と。神は人を傷つけるため、生き物を苦しめるためにご自身の力を振るうことはなさらないと約束する。「箱舟から出なさい」とは、人は皆、この世において生きること、神は人をこの世の社会において生かし、生きことを勧めておられる。22節「地の続くかぎり、種蒔きも刈り入れも／寒さも暑さも、夏も冬も／昼も夜も、やむことはない」とは、私たちは、この「地」に生き、この「地」で互いに生きるために「種蒔きも刈り入れも」し、神は私たちが生きるように、神の愛は「寒さも暑さも、夏も冬も／昼も夜も、やむことはない」と言うのである。その神の思いを破壊するのは、人間であり、戦争だ。(神谷)